

安倍総理に進言

— アベノミクスのモルヒネ化危惧、真の改革を —

2015-01-01

ふがない野党のおかげで、続投できることになったが、またしても当面の経済沈滞化を防ぐために大型予算編成という安易な手法に頼ろうとし、本来の抜本的な改革は後回しにされそうである。これまでの小粒の歴代の短命内閣（第一次安倍内閣を含む）に比べて、「芯が通っている」と期待している国民も少なくない。さすが第一次安倍内閣を退いたあと、お寺にこもって精神を高められただけのことはある、と評価していたが、このままではモルヒネ化しそうで危険である。（KojiMemo(26)「もうモルヒネは要らない」2012-12-30 参照）

弱った体に、カンフル注射で元気をつける、のは時として意味がある。しかし抜本的な病巣を切除するという処置を施さない限り、薬がきれると元に戻ってしまう。モルヒネは即効性があるが、薬がきれると元に戻るのではなく、確実に体力を蝕んでいく。

抜本的な改革には大きな痛みを伴う。（KojiMemo(20)「日本と地球を救う」2009-01-01 参照(*2)）重要なことは、改革対象となる人たちに意味のある新しい目標を設定することである。人格的、能力的にも非常に優れた人たちが多く、その目標が、「被災(*1)先進国」としての経験を世界中の苦しんでいる人たちに貢献することを提言している。信頼してくれる国を増やしていくほうが、軍備増強よりも、よほど戦争抑止力になる。

(*1) 被災には自然災害だけではなくて、原子力などの想定外人為災害を含む。

(*2) のうち、「改元」だけはあまりにも危険であるために撤回する。